

単径ヘルニア（内単径ヘルニア・外単径ヘルニア）

【単径ヘルニアの症状】

単径部のヘルニアで最も多い疾患です。一般に『脱腸』とも呼ばれ、腹部の内臓が単径部（脚の付け根）の弱い部分（ヘルニア門）から皮膚の下に押し出され、皮膚が膨らんでしまう病気です。ヘルニア門の位置によって内・外に分類されますが、内外混合型もあります。表面的に腫れる場所は同じなため、見た目での区別はできません。立っている時は膨らみ、仰向けに寝ると戻ることが多いですが、膨らんだまま戻らなくなる場合や、巨大になる場合もあります。膨らんだまま戻らず痛みを伴う場合を嵌頓（かんとん）と呼び、はみ出した腸が壊死したり、腸閉塞の原因となるため、速やかな処置や緊急手術が必要になります。

【単径ヘルニアの診断】

問診と診察で単径ヘルニアが疑われる場合、当院ではCT検査を行って診断しています。撮影はなるべくヘルニアが飛び出している状態をとらえるため、うつ伏せで行います。

【単径ヘルニアの治療】

乳幼児の単径ヘルニアは成長に伴って治る場合もありますが、成人の単径ヘルニアは自然に治ることはなく、治療には手術が必要です。ただし単径ヘルニアは良性の疾患であるため、通常“手術をしなければ命に関わる”ということはありません（嵌頓の場合を除く）。しかし放置すると徐々に大きくなり、大きくなる程手術は大変になりますので、腫れが苦になる患者さんや痛みのある患者さんには早めの手術をお勧めしています。

単径ヘルニアの手術で行うことは、①ヘルニアが飛び出す出口（ヘルニア門）をふさぐ ②他の場所からヘルニアが起こらないように予防する、ということです。

当院で行っている単径ヘルニアの手術は大きく分けて

- ・単径部切開法による単径ヘルニア修復術
- ・腹腔鏡下単径ヘルニア修復術（TAPP法）

の2種類があります。各々にメリット・デメリットがありますので、患者さんそれぞれに最適な治療法をご提案いたします。

単径部切開法による単径ヘルニア修復術

単径ヘルニアで膨らんでいる真上付近の皮膚を5～6cm程切開し、徐々に深部へと進んでヘルニア門に到達する方法です。ヘルニア門を塞ぐために網目状の人口筋膜（メッシュ）を使用します。使用するメッシュの種類によってメッシュプラグ法・リヒテンシュタイン法・ダイレクトクーゲル法などの術式があります。手術する部位に直接痛み止めを注射する局所麻酔で行いますが、それに加えて手術中は点滴で鎮静剤を使用し、うとうと眠った状態になります（全身麻酔ではありません）。超高齢・基礎疾患などにより全身麻酔が行えない場合・

前立腺がんなど過去の手術により腹腔鏡手術が行えない場合などにお勧めしています。

※当院では 15 歳未満の患者さんに対するヘルニア手術は行っていません。10～20 代の若年患者さんに対しては、メッシュを使用しない術式をお勧めする場合があります。

腹腔鏡下単径ヘルニア修復術（TAPP 法）

お臍の上とその左右、計 3 か所を 1cm 弱切開し、お腹の中に腹腔鏡（カメラ）を入れて、内側から直接ヘルニア門に到達する方法です。ヘルニア門やその周囲の状態を直接観察することができます。単径部切開法と同じく、メッシュを使用してヘルニア門を塞ぎます。単径部切開法と比較して術後の痛みや違和感が少なく、より早期の社会復帰が可能とされています。また左右両側のヘルニアを同じ創から同時に手術可能であることもメリットと言えます。手術は全身麻酔で行いますので、心臓や肺に病気のある方・その他の基礎疾患により全身麻酔に危険を伴う方には単径部切開法をお勧めしています。また前立腺がんなど、過去に受けた手術によっては腹腔鏡手術を行えない場合があるため、同じく単径部切開法をお勧めしています。

【日程と術後の生活】

単径部切開法・腹腔鏡手術ともに入院期間は通常 3 日間です。手術前日に入院して頂き、2 日目に手術、経過に問題がなければ 3 日目退院となります。退院後は日常生活動作程度の運動やデスクワークは問題なく行えます。激しい運動・重いものを持つことなどは術後 2 週間程度控えて頂くようお勧めしています。退院後 1～2 週間程度で外来を受診して頂き、経過に問題がなければ治療は終了となります。

【治療にかかる費用の目安】

	1 割負担	2 割負担	3 割負担
単径部切開法	約 25000 円	約 50000 円	約 75000 円
腹腔鏡手術	約 50000 円	約 100000 円	約 150000 円

※入院時食事療養費の一部負担金、差額個室量などの料金を除く